



発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウストゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成25年 10月号
No.259

京都の智慧を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

首相、消費増税を決断 増大する社会保障の財源確保



消費増税を発表する安倍首相

経済対策で景気の落ち込みを防止

世界で類を見ない早さで進む日本の高齢化。年金、医療、介護等の社会保障関係費は、現在のサービスを維持するだけで毎年1兆円規模で増え続けていく。社会保障関係予算は2012年度で、109兆円を超え、このペースで推移すると2025年度には、約149兆円に達する見込みである。将来の国民生活の安心を確保するためには、社会保障制度の安定が不可欠である。それには恒久的な財源が必要である。昨年、民主党政権下で、自民、公明、民主の3党は与野党の壁を乗り越えて「社会保障と税の一体改革」を協議し、2014年4月に8%、2015年8月に10%に消費税を引き上げること合意した。増税は誰も喜ばない。しかも増税による景気落ち込みを心配する声も強い。だが、必要な経済対策を実施することを前提に、10月1日安倍首相は蛮勇を奮って消費増税を決断した。

恒心

★9月中旬、東京と茨城の主要都市を結ぶ常磐線の車中で、数人の大人が、両側の優先席を陣取り、通路にテーブルを置いて、乗客の迷惑も顧みず酒の肴を盛って、居酒屋で

酒を飲んでるように、傍若無人な振る舞いをしていたことが明らかになった。★乗客達は横目に見て、ぶつぶつ文句を言っても、飲んでいる人達に対して誰ひとり、面と向かって注意しなかった。迷惑行為を注意して逆に、どんなとばっちりが返って来るかもしれないと恐れる。従って心の中では怪しからん、何とかしなければと思いつつ、我関せずと無関心を装う人が多い。勇氣ある行動はなかなか取りにくい。★まして命懸けで他人を助けることはそう簡単に出ることはない。台風18号の影響で増水していた淀川で、小学校4年の児童が濁流にのまれて約350m下流に流された。これを見た中国人留学生が川に飛び込み救助した。溺れる人を助けに行ったら自分も溺れて死んでしまう可能性が高い。大阪府警は感謝状を贈呈したが当然である。勇氣ある行動に各界から賛辞が寄せられている。★10月1日、JR横浜線の踏切内で倒れていた男性を助けようと、女性(40)が父親の制止の声を振り切って踏切に入り、男性は助かり、自分は電車にはねられて死亡した。正に自分の命と引き換えに男性の命を救った。政府は女性の勇氣ある行動を称え、早速紅綬褒章と安倍首相名の感謝状を贈った。2人の命を賭しての尊い行動は、我々も模範としなければならぬ。人情は紙のごとくと言われる今日、久しぶりの美談である。

参議院アメリカ重要事項調査団

参議院議員5人が米国を訪問した。9月21〜26日の僅か5日間であったが、その間、精力的に多くの有力な方々とTPP、安全保障、財政、及び医療問題等について意見交換が出来て有意義な調査旅行であった。

9月21日(土) ワシントン

● 渋谷内閣審議官との面談

ワシントンでは、折からTPP交渉が行われており、日本側の中心となって各国との折衝に当たっていた渋谷内閣審議官より、交渉の進捗状況を聞いたが、参加国の協定で交渉の中味は公開しないことになっており、十分な情報を得ることは出来なかった。

9月22日(日) ワシントン

● アーリントン国立墓地にて献花

この墓地は、南北戦争から現在まで



献花式に臨む末松、二ノ湯議員

家の犠牲となった陸海軍の兵士、戦没者やテロ犠牲者などのアメリカ合衆国のために尽力した人達が眠っている。我々議員団は、公式参拝し、花を捧げた。この墓地には、いまだに日本で人気の高い故ケネディ大統領も眠っており、永遠の炎が燃え続けている。

● 米戦略国際問題研究所(CSIS)勤務の邦人と昼食会

米国には多くのシンクタンクがあり、政府に対して政策を提言し、政府の意思決定に大きな役割を果たしている。戦略問題研究所には日本から優秀な役人が出向している。尖閣の国有化以来、中国はメディアや講演会を使って、日中間に領土問題が存在していると攻勢をかけており、心配の声が皆から挙がっていた。

● スミソニアン博物館の視察

アメリカは博物館や美術館などの施設が、充実している。中でもスミソニアン博物館は各種の博物館があり、入場料は無料である。視察団は航空宇宙博物館を視察した。館内にはスペースシャトルエンタープライズ、エノラ・ゲイ、コンコルドなどが展示されており、スケールの大きさに圧倒される。

9月23日(月) ワシントン

● 佐々江駐米大使との朝食会

さすがに同盟国アメリカにある日本大使の公邸は立派である。大使は着任してから1年が経過した。大使から最近の日



アメリカ大使公邸で大使を囲んで

米間の問題について説明を受けた。

● エルメンドルフ議会予算局長と意見交換

アメリカは国家予算に対して議会の権限が非常に強い。現在でも連邦政府が執行する予算に、大きな制限を加えている。予算をめぐる政府と議会との関係について局長と意見交換した。

● セイチエニー米戦略国際問題研究所(CSIS)日本部次長との意見交換

親日家であるセイチエニー氏は流暢な日本語で、日中韓の問題について話をした。米軍再編が動かないと、中国が慢心して東シナ海に出てくる。尖閣問題が危なくなるのではないか。集団的自衛権を使用容認することは、米国の立場からすれば歓迎すべきことだと思う。TPPについては、日米両国が参加して、アジア経済のダイナミズムに入って、一緒に

事と意見交換

アベノミクスは今のところ成功しているのではないか。米国の財政は、暫定予算が議会で認められるかが課題である。さらに、連邦政府の債務上限引き上げが行われないと、様々な影響が出てきて、社会保障の支払いも出来なくなると、政府と議会の関係を心配していた。

● ブルース・ハーシュ上院財政委国際貿易担当主席補佐官と意見交換

氏はTPPに関して、議会の上院議員にかなりの影響力がある。TPPでは、日本に農産品、米国に工業製品の重要品目があることは、2月に安倍首相とオバマ大統領の間で合意されている。TPPは日米関係をさらに良くする重要な手段であるとTPPの意義を強調していた。

● マコフスキー上院議員(アラソカ州)表敬

アラソカからの天然ガスが日本に継続的に輸出されることを祈っている。日本に2つのことに感謝したい。1つはアラスカ大が日本と協力して天然ガスの研究を行っている。さらに3・11の大震災後、アラスカに漂流した漂流物の処理のために寄付金を募ってくれたことである。

● マケイン上院議員との意見交換

大統領選挙に2回立候補した知日派の有力政治家で、安全保障問題に精通している。集団的自衛権の行使容認、そして尖閣、沖縄の普天間移設問題にも強い関心を示していた。尖閣は単なる島ではなく、東シナ海の実効支配のためにも要で

あると述べ、日本と韓国がもっともっと対話を深め、良好な関係になってほしいと希望していた。



マケイン議員と国会議事堂内の執務室で

●米国立衛生研究所(NIH)小林久隆主任研究者と意見交換

小林研究者の研究テーマは、赤い光を当てるとがん細胞だけが光り、さらに赤い光でがん細胞だけを分解するがんの新治療法の開発。医療機器開発や再生医療の実用化を加速するために、安倍内閣は医療分野の研究開発の司令塔機能の実現に向けて、一元的な研究管理の実務を担う米国の国立衛生研究所(NIH)と同じような機構を設立する意向である。

9月24日(火) デトロイト

●サウンティールデトロイト市評議会議長

評議会議長は日本の市議会議長。市が財政破綻したのは1950年代以降、何十年にわたって年金や医療費の問題に手をつけてこなかった。市職員の給料は高く、従って年金も高い。2年前まで、医療費は本人負担はゼロであった。デトロ

イトは労働運動が盛んであるので、市職員に対する批判は少ない。ただ、今日の事態に至ったことには、市の職員、市議会議員全員に責任がある。

9月25日(水) シカゴ

●中村祐輔シカゴ大学教授との意見交換

教授は人の遺伝子を解読し、その人に合ったがんのワクチンを接種することによって、がんの発生を抑制する研究を行っている。しかし日本には新薬を開発しようとする戦略がない、しかも新しいことをしようと思っても学会のボスが駄目と言えば前に進まない日本の医学会の現状を厳しく批判していた。

●ハスタートシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)理事との意見交換

氏は1965年来日、大阪で英語の教師をしていた。CMEは農産物、株、エネルギーまで扱う世界最大の取引所である。現在日本は原子力が全て稼働停止している。将来再稼働してもせいぜい電源の15〜20%ぐらいしか賄えないであろう。その解決策は天然ガスと考えている。日本がCMEと協力することによって、天然ガスの将来の価格高騰を抑えることが出来る。

荒廃したデトロイト市 昼間すら行けない危険な町

デトロイト市は1900年代前半、自動車産業の発展と共に栄え、アメリカ有数の大都会であった。1960年代に

なって、黒人労働者が大量に流入し、白人との間に摩擦が生じ、人種暴動が発生し、裕福な白人層がデトロイトを離れ、郊外に逃れ、移り住むようになった。そのため、①急激な人口の減少、②高い失業率、③税金等の減少が重なり、市の財政が大幅に悪化し、1兆8千億円の負債を抱え、破綻した。今やデトロイトは、犯罪が多く、全米で最も危険な町と言われている。街灯は4割も消え、救急車が現場に到着するのに5分以上要し、市民サービスが非常に悪くなっている。町が荒廃し、仕事がない人たちがたむろしている町の様子を見ることも、デトロイト訪問の目的でもあった。早朝に町を視察する予定であったが、徳島県警からデトロイト総領事館に出向している領事が、そんな危険な場所へ行つて、万が一危害を加えられたら大変です。止めて下さいと懇願されて、取り止めることになった。町の中心地以外、デトロイトは普通の人が足を踏み入れることが出来ないほど問題が多く、危険ということである。



荒廃したビルが立ち並ぶデトロイト市

二ノ湯議員、

自民党人事局長

総務委員会筆頭理事

安倍内閣は参議院選挙後、内閣改造人事を行わず、現在の閣僚で、臨時国会、そして通常国会に臨み、成長戦略法案の成立に全力を尽くす予定。大臣待機組にとっては残念なことである。しかし日本では閣僚がほぼ1年毎に交代し、国内はもちろん外国からも変りすぎと批判がある。政治、経済、社会が複雑な今日、1年の在任では、所管の政策に精通することが出来ず、下手をすれば役人の操り人形のような大臣になってしまう。今回、安倍首相が改造を見送ったのは、勇気ある決断である。ただ、ほとんどの副大臣、政務官は当選回数数の若い政治家に経験をさせる意味で交代した。一方、自民党の役員、及び政調、各部会の人事については、幹事長始め党3役、若干の役員以外は交代した。政治家は非常に人事に関心が強く、希望するポストを求めて自薦、他薦がすさまじく、ポストを割り振る幹部は政治家からの攻勢をかわすのに苦労していた。二ノ湯議員は党の役職では、人事局長、党紀委員に就任することになった。人事局長は火、金曜日に開かれる党役員連絡会・総務会に出席しなければならぬ。参議院では総務委員会の筆頭理事、予算委員会委員、沖繩及び北方問題に関する特別委員会理事に選任された。



「喜びの万歳をする近藤さん」

9月29日に告示され、10月6日に投票された長岡京市議会議員選挙(定数24名)で、新人で自民党推薦の近藤まいこさん(二ノ湯さとし秘書)が、2133票を獲得して堂々トップ当選を果たした。昭和47年10月、長岡京市の市政施行以来、保守系女性市議員は近藤さんが初めて。近藤さんが出馬の意思を固めたのは、参議院選挙前であった。参議院選挙では西田昌司選挙事務所に詰めており、本格的に準備に入ったのは益過ぎであった。正直地盤も知名度もない、まさにゼロからのスタートであった。それでも井沢京子衆議院議員秘書、二ノ湯さとし参議院議員秘書として地道に活動した実績とその間培った人脈を生かして、大方の予想を上回る大量得票となった。

**近藤まいこさんトップ当選
長岡京市会、
初の保守系女性議員**

新春招福バスツアー 第27回 伊勢神宮初詣

◇旅行日 平成26年1月13日(月・祝) ◇昼食場所 伊勢 千の杜

◇会費 8,000円

後援会の皆様のご要望により、式年遷宮で新しく建て替えられた、内宮・外宮を参拝いたします。新たな気持ちで、一年間の幸福を祈願いたします。

◇申込先 後援会役員または 二ノ湯さとし京都事務所まで **TEL(075)315-2228** 参議院議員 **二ノ湯さとし後援会**
FAX(075)315-2310

身辺雑記

一、J R北海道で200以上のレールの異常箇所が見つかった。今まで大事故を起こさなかったことが不思議だ。なぜ基本的なことが放置されていたのか。J Rに保守・点検する経費がないのか、それとも現場職員の怠慢なのか。

一、I O C総会で安倍首相は汚染水は完全に制御されていると、世界に向かって大見得を切った。東京電力の放射能汚染水の処理は一体、どうなっているのか。次々と処理ミスが出てくる。この先完全に処理が出来るのか心配である。

一、アメリカと日本との時差は13時間。以前は時差ボケなどあまり感じなかったが今回は、夕方になると眠くなってくる。年のせいかな。それにしても、就任以来、度々外遊をこなす安倍首相の気力、体力は大したものだ。

一、今年度は伊勢神宮の20年に一度の式年遷宮。10月5日、「遷御の儀」が厳かに行われた。後援会の伊勢神宮初詣は今年で終えることになったが、日本の歴史、文化の凄さを知ったのか、初詣でを続けようという声があがってきた。

一、注目されていた堺市長選挙。大阪維新の会と現職の戦い。大阪都構想の実現か、それとも堺市の存続か。有権者には少し難しいテーマの戦いであった。争点よりも橋下市長の強引さに堺市民が拒否反応を示した選挙結果であった。

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は毎月一回の発行です。毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい
年間購読料 1200円
郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会

— お問い合わせ先 —
二ノ湯さとし事務所
電話 075-315-2228

ホームページを開設いたしました
<http://www.ninoyusatoshi.com>

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会 年会費 1万円

入会申込・お問い合わせ先
二ノ湯さとし事務所 ☎075-315-2228

「日本真生塾」第37回例会のお知らせ

平成25年11月25日(月) 18時~21時

場所：龍谷大学アバンティ響都ホール
(京都駅八条口前アバンティ9F)

★今後のテーマは「戦後の日本」について進めてまいります。

<お問い合わせは事務局へ>(担当：奥井)
TEL：050-7544-4018 メール：nihonseinseijuku@gmail.com

内容・年会費など詳しくはホームページをご覧ください。日本真生塾で検索。

日本真生塾 塾長 岡本幸治